



No. 1

## Joslin Diabetes Centerでの 留学生活

九州大学大学院医学研究院  
病態制御内科学(第三内科) 特任助教

横溝 久

### ■ はじめに

私は2015年4月～2019年8月まで、米国マサチューセッツ州ボストンにありますが Joslin Diabetes Center, Research Division, Department of Vascular Cell Biology (Dr. George L. King Lab)にて Postdoctoral Research Fellowとして勤務していました。この度、本稿を執筆する機会をいただきましたので、留学までの経緯や留学生活、研究内容など御紹介させていただきます。

### ■ 留学までの経緯

3年間の内科研修中、さまざまな糖尿病疾患を担当していたなかで糖尿病領域の合併症病態の機序解明、治療薬の開発などの研究にも興味をもつようになりました。4年目から九州大学大学院医学研究院病態制御内科学分野(第三内科)の博士課程に入学して大学院生として研究生生活を始めました。実際には計画・実験しても上手く行かないことも多くあり、自分で仮説を立てて実験を計画・実行し、検証を繰り返すことの難しさを実感するなど、一定の結果が出るまでに時間がかかりました。試行錯誤の実験生活の日々を過ごしていくうちに臨床の面白さとは異なり、まだわかっていないことを発見していく基礎研究も面白いと感じるようになった私は、日本、アメリカの糖尿病学会などの発表を通して国内外の研究者と接するなかで、次の展開として海外留学に挑戦している。いろいろな経験を積みたいと考えるようになりました。学

位(博士)を取得して海外留学助成も受けることが決まり、家族を連れてボストンでの海外生活を始めることになりました。

### ■ Joslin Diabetes Center/ Research Division, Department of Vascular Cell Biology

ボストンはアメリカ合衆国のなかでも治安がよい都市の一つで、Boston Red SoxやNew England Patriots、ボストン美術館やボストン交響楽団などスポーツや芸術の街であり、学問的にはHarvard UniversityやMassachusetts Institute of Technology (MIT)と世界をリードする病院・研究機関があります。ボストンへ留学されている日本人も多く、さまざまな分野・国の方と知り合う機会があります。

Joslin Diabetes CenterはHarvard Medical Schoolの関連医療機関であり、糖尿病診療を行うと同時に多くの研究室を有して世界各国から多くの医師、研究者が集まっている研究機関でもあります(写真1)。ボストンのLongwood Medical and Academic Areaに位置し、周りにも同じ病院群としてDana-Farber Cancer Institute, Beth Israel Deaconess Medical Center, Brigham and Women's Hospital, Children's Hospitalなど世界的にも第一線で活躍している研究機関を有します。